

# 岩手県から北海道へ

氏名 千 田 剛

岩手県大船渡市立第一中学校 → 北海道北見市立北中学校  
(期間：平成28年4月1日～平成30年3月31日)

## 1 岩手県や大船渡市の教育

県では、岩手の義務教育の目的を「人間形成」ととらえ、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、社会に適応する能力を育てる「人間形成」を目指している。「人間形成」のために、生活、学習面における基礎・基本と社会人になることの意義の理解を重視し、学校内の人間関係の強化、学校と家庭の連携・協力の強化へ向けて取り組んでいる。

大船渡市では、県の指針を受け、「知・徳・体」を以下のようにとらえた。

知…確かな学力の育成 徳…豊かな人間性の育成 体…健やかな体の育成

その上で、生命を守り、郷土を愛し、大船渡の未来を築く「復興教育」の視点から知・徳・体の調和のとれた「たくましい子ども」の育成を目標に掲げている。

また、「いわての復興教育」プログラムに基づく教育活動を推進し、復興教育を学校経営に位置づけ、「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を確保する」ために、3つの教育的価値（【いきる】、【かかわる】、【そなえる】）をこれからの教育活動の組み立てに生かしていこうとしている。

## 2 学校や地域の特色ある教育活動

### ○ 地域の特色ある教育活動

#### ・キャリアチャレンジデー

津波被害にあった大船渡市では、例年中学2年生が実施していた「職場体験学習」の受け入れ先が確保できないことから、文部科学省復興支援教育支援事業の一環として、市内の2年生を一堂に会して、「キャリアチャレンジデー」を行っている。

昨年は、16の企業、団体から講師を迎え、午前中は16グループに分かれて企業・団体によるスペシャ

ル・トークセッション、午後は講師に『世界一受けたい授業』の著書でも知られる藤原和博氏を迎え、「よのなか」科スペシャル一斉授業を全員で受講した。

企業講師の方々からは、自分の仕事における「意思」、「役割」、「能力」についてを学び、午後の藤原氏による一斉授業では、「ハンバーガー屋さんの店長さんになってみよう！」というテーマで、正解が一つではない課題に対してのグループワークと、代表者の舞台上での発表に、会場が大いに盛り上がった。

〈「よのなか」科スペシャル一斉授業〉



## ○ 学校の特色ある教育活動

「私たちの道徳」に1枚の学校新聞が掲載されている。震災後まもなくから発行が始まり、今も続いている本校の学校新聞「希望」である。全校生徒への配布はもちろん、校庭に建設された120戸の仮設住宅にも配達している。震災当時は避難所へも配布された。第1号の大見出しは「一中生に声をかけて下さい！何でもやります」。希望を届ける。のスローガンのもと、希望隊として現在でも春には全校生徒による河川清掃、冬にはクリスマスカードを作成し、学区内の14の仮設住宅団地、約450戸に配布している。

〈希望隊 河川清掃活動〉



## ○ 学習習慣や基礎学力定着への取り組み

### ・ノーチャイムの伝統

本校では、20年以上チャイムを鳴らさずに、生徒一人ひとりが常に時間を意識して生活するという目的からノーチャイムを続けている。

### ・基礎学力定着への取り組み

基礎学力の定着と学習の仕方を学ばせるために、年に5回（5教科1回ずつ）一中杯テストに対する取り組みを行い、各クラスの平均点を競っている。目標点（80点以上）を決め、90%以上の生徒を目標点に到達させることをスクールマニフェストとしている。

## ○ 小中学校の連携

学区一斉研修会として、中学校において一年生を中心に全学級公開授業を行い、学区内の3小学校の先生方と本校教員とで学習・生徒特別支援教育、学校経営等の分科会に分かれて研修を行い、小中の連携を図っている。分科会の中では、家庭学習の取り組み方についても、小中で共通理解を図っている。

## 3 私が取り組んできた実践

## ○ 家庭学習の習慣化への取り組み

各教科で出される課題とは別に、自分で課題を見つけて家庭学習を毎日ノートに1ページ、更に予習や補充学習のプリントを1枚提出させた。予習・補充プリントは、次の授業につながるものや学習した内容の定着のためのものが多く、授業と家庭学習との関連づけを図った。

## ○ 「補充学習」の取り組み

家庭学習の習慣化を図るため、放課後に家庭学習を継続的にできない生徒を対象に補充学習を行ったり、長期休業期間中に、学習定着度の低い生徒に補充学習を行った。

## ○ ニュース発表スピーチ

毎日、朝の会でニュース発表として最近あった新聞記事を元に、ニュース内容の紹介と、感想を発表させた。社会への興味・関心を持たせることと、新聞記事から読み取ったことをもとに5W1Hを明確にして、学級のみんなへ自分の知った情報を伝えるという言語活動の充実を目指した。

## ○ 日記による書く活動

毎日、生活の記録という日記を書かせ、書く力の向上を図った。毎日の部活動や家庭での様子、週末の過ごし方等を知る手がかりとしても活用し、生徒指導に生かした。